



北海道室蘭養護学校

コミュニティースクール

CSだより 第4号

令和6年2月29日 発行



今年度の学びを振り返る

北海道室蘭養護学校長

星 野 健 史

令和5年度から始まった新しい「北海道教育推進計画」や「特別支援教育に関する基本方針」に基づく学校経営の重点として「子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育実践の推進」に取り組みました。コロナが5類になりましたが、児童生徒の安全・安心な学校生活を第一に障がい者の人権尊重と危機管理の不断の見直しを図りました。

児童生徒を指導する場合は、間違いを注意するのではなく、よくできているときや望ましい行動ができているときに褒める指導「ポジティブな行動支援」を全校で心がけました。また、学部目標を分かりやすい言葉でキャッチフレーズ化し声に出して常に意識しやすくすることで、子ども・教師・保護者も同じ目標に向かって学びを確認することにつながりました。学校評価では回答した98%の保護者が「個別の指導計画に基づく教育内容、評価はわかりやすく説明されていますか」という項目に「よくできている」または「できている」と回答いただきました。

学部目標のつながりを意識した効果は、本校の特色ある教育活動の一つである「蘭学祭」（高等部が実施する作業学習の製品販売や作業の実演など「いわゆる学校祭」です）を全校児童生徒が関われるよう変化しました。2日日程で行い、1日目は、小中学部の児童生徒が算数や数学で学んだ力を使い、お客として参加し、その接客を高等部の生徒が行うことで、中学生にとっては、高等部に進学したときに自分が行う活動がイメージできる機会となりました。小学生には高等部の生徒が優しく接客する姿が多く見られました。大人に対しては自信がなくなると頼りがちな生徒も、生き生きと自信をもって小学生に関わっていました。本校が目指している「思いやりをもって、人とかわかり、協力する児童生徒」の姿として高等部生徒の成長が評価できる教育活動となりました。

本校で学ぶ児童生徒は、じっくり時間をかけてゆっくりと学び、実際の活動を通して学んだ力を発揮できるようになります。これが特別支援学校の特色と言えるでしょう。

昨年度から「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実に取り組んでおりますが、ICTを活用した「個別最適な学び」と蘭学祭のような「協同的な学び」が学校全体で計画的に学部間が連携した教育実践として実を結ぶことが出来ました。これらの取組を保護者の方々はもちろんのこと地域の方々にもみていただき、共に教育の成果を感じていただけるよう次年度の教育活動に生かしてまいりたいと考えておりますので、次年度の本校の教育活動へのご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

★ 第三回 学校運営協議会を開催 ★

2月6日（火）10:00 から、3名の委員の方々（2名欠席）にお集まりいただきました。

当日は校内視察・全学部の授業参観の後、『令和5年度学校評価について』『令和6年度の学校経営方針（案）について』の説明・協議を行いました。

（学校評価結果は、本校ホームページに掲載しております。）

協議の概要等は以下のとおりです。

ご意見

■ 鈴木会長

- 他地域と比較して、八丁平は買い物学習など不便な地域かもしれない。自然は豊かなので、学習に活用してほしい。
- 学校長が地域の町内会や行事などに顔を出していることは、顔をつなぐことができ、効果的であると思う。

■ 小林委員

- 先生方は、子どもたちの健やかな成長に向けて頑張っている。
 - 個々の悩みを吐き出す仕組みを整えるなどし、先生方が、元気で、生き生きと働ける学校であってほしい。
 - 子どもたちの頑張りや、ほめられたことなど、家庭では見せない子どもたちの姿を、親と情報共有してほしい。
 - 社会生活を送る上で、挨拶はとても大切なスキルであると思う。大切にしてほしい。
- ### ■ 高橋委員
- 若い人を育て、活躍できる学校であってほしい。
 - 労働人口が減少し、人材の確保が難しい時代である。現状の認識が共有されることが難しい。
 - 「悩み」を相談するスキルが身についておらず、「気づいてもらえないのか？」という感覚の人もある。
 - 職場で若い人との交流を積極的に行ったり、ベテラン、若い人の双方に研修をしたりすることも必要かもしれない。

今回も、多くの貴重なご意見をいただきました。

いただいたご意見を生かし、次年度のよりよい学校運営につなげられるよう進めて参ります。

★ 室蘭市特別支援教育合同作品展に出展 ★

2月15・16日にモルエ中島1階イベントスペースで『第65回 室蘭市特別支援教育合同作品展』が行われました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度まで実施を見合わせていたため、4年ぶりの開催となりました。市内の小中学校の特別支援学級と特別支援学校などの作品が多く並び、買い物客らで賑わっていました。本校からは、絵画（小学部6年生）、クリスマス飾り（中学部3年生）、モルックとスキットル（高等部3年生）を展示しました。保護者と一緒に会場へ見に来ている本校の生徒もあり、自分の作品が展示されていることに目を輝かせていました。

さて、『SDGs』という言葉 皆さん、どこかで一度は聞いたことがあると思います。『SDGs』とは「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標で、『インクルーシブ（包摂的）』という言葉は5つの目標で使用されています。また、「あらゆる」「すべての」という言葉も頻繁に使用されています。『インクルーシブ』とは、あらゆる人が孤立したり、排除されたりせず、多様性が受け入れられており、それぞれの個性が尊重されながら社会の構成員として支えあうという社会政策の理念です。地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓うSDGsは、あらゆる人が排除されないことを意味するインクルーシブと近い理念だと考えられます。

今回の合同作品展は、多様性が受け入れられ、それぞれの個性が尊重される社会を目指していくための第一歩なのではないでしょうか。このような活動に本校が参加できたことはとても意義のあることです。今後も、地域の中で学ぶことを大切にしていきたいと思います。

学校教育目標

「一人一人の夢や可能性に向かって
心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成」

令和6(2024)年度 学校経営の重点目標

子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育実践の推進
～子どもたち一人一人を主語にした取組の充実～

経営の重点	指導の重点
持続可能な学校指導・運営体制の構築 (学習環境の改善・働き方改革・新たな教師の学び)	子どもの主体的な活動を育む指導の工夫 (ポジティブな行動支援・自己肯定感の育成・伴走する教師)
職員のエンゲージメント向上 (教育ビジョンの共有・やりがい創出・働きやすい職場づくり・個性を生かせる成長支援)	順序性や系統性を踏まえた指導の改善 (知的障害の各教科・自立活動等の充実)

